

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	理数系人材育成協働事業〈島根大学〉
取組内容	【算数・数学パワーアップ教室】 夏季休業：7月31日（月）～8月4日（金） 5日間 市民学習センター（7月31日～8月2日） 鎌手公民館・小野中学校（8月3日～8月4日） 冬季休業：12月26日（火）～12月28日（木） 市民学習センター（12月26日～12月28日） ふれあいホールみと（12月27日～12月28日） 学年末休業：3月25日（月）～3月27日（水） 市民学習センター（3月25日～3月27日） 年11日間、市内各所において小学校4年生（複式学級の場合は3年生も可）から中学校3年生の希望者を集めて、島根大学の学生を講師に迎え、算数・数学パワーアップ教室を行った。各長期休業中の宿題や教育委員会で用意した課題、タブレット端末にダウンロードしたタブレットドリルに取り組んだ。大学生にわからないところを教えてもらいながら解いた。大学生が企画した「算数・数学が好きなになる」活動をとおして交流も図られた。 
成果	保護者・児童生徒の口コミにより、徐々に参加者が増え、夏休みは小中合わせて109名（小学生65名・中学生44名）、冬休みは82名（小学生56名・中学生26名）、春休み（学年末休業）は82名（小学生66名・中学生16名）の参加があった。 1人では解決できない課題に対して、大学生の力を借りながら意欲的に算数・数学の問題に向かう姿が多く見られた。算数・数学パワーアップ教室に参加してよかったと思う児童生徒の割合は毎回90%を超えた。難しい問題にもチャレンジしたい気持ちが参加する前よりも90%以上の児童生徒が強くなったと、アンケートで見られた。 学習中や休憩時間に大学生と触れ合ったり、大学生の企画した活動に参加したりしながら、大学生と一緒に学習して楽しかった、大学生や大学へのあこがれが強くなった、それぞれのアンケートの肯定的評価は毎回90%を越えた。
今後の事業展開	令和6年度も引き続き、長期休業中に11日間（夏季休業5日間・冬季休業3日間・学年末休業3日間）実施する。今までに実施していない匹見地区でも実施予定であり、他課と協働しての大学生への益田の魅力発信の取組も継続する。

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	市内高校連携推進事業
取組内容	【市内4高校の特色を活かした高校魅力化の取組】 ①高度理数系人材育成支援業務委託 1) 「サイエンスキャンプ」(大学教員による中学生向け実験教室) 2) 出前実験・理科読を楽しむ会(小学生向け実験教室) ②農業・モノづくり人材育成業務委託 1) GAP米(田植え・稲刈り)体験など「産業の魅力発信」 2) 「地産・地消の推進」を目的とした農産物・加工品の地域販売実習など 3) 農業機械整備実技指導など「地域連携による技術実証及び技術活用」 4) 土木工事現場見学会など「体験・交流による地元就職意識向上の取組」  サイエンスキャンプ  田植え体験 ③私立高等学校魅力化活動補助金 益田市の私立高校において、地域活動や地域住民との交流を実施することで、県外出身学生が卒業後も第2のふるさととして益田市と関わり続ける人材(関係人口)の確保につながった。 (益田東高等学校) 小中学生との交流機会の創出(学力育成講座の実施)を目的とした施設整備を実施。希望する高校生が「学習支援員」として参加。 (明誠高等学校) 生徒・教員・地域住民等が交流するための施設整備を実施。地域との交流事業だけでなく、市内企業との進路相談などにも活用した。また学校行事の際には一般開放し、地域の方との交流機会の創出にもつながった。 【市内4高校の魅力を小中学生に発信する取組】 ①益田未来協働フェスタ2023(7/7~7/8) 市内4高校が連携・協働して、各校の魅力を発信するためのイベントを開催 ②市内4校の魅力発信冊子作成・配布 市内4校の魅力を紹介する冊子を作成し、市内小学6年生、中学3年生に配布し、進路選択の一助としてもらう。
成果	【市内4高校の特色を活かした高校魅力化の取組】 ①高度理数系人材育成支援業務委託：3事業 ②農業・モノづくり人材育成業務委託 1) 産業の魅力発信：9事業(36回) 2) 地産地消推進：2事業(4回) 3) 地域連携による技術実証及び技術活用：3事業(4回) 4) 体験・交流による地元就職意識向上：5事業(9回) ③私立高等学校魅力化活動補助金：2事業 1) 益田東高等学校 県外出身学生の参加：113名/満足度83% 2) 明誠高等学校 県外出身学生の参加：140名/満足度81.1% 【市内4高校の魅力を小中学生に発信する取組】 ①益田未来協働フェスタ2023(7/7~7/8) 参加者：小学生359名、中学生125名、高校・一般950名 ②市内4校の魅力発信冊子作成・配布 900部作成し、市内小学6年生・中学3年生に配布
今後の事業展開	中高一貫教育に接続する取組の一つとし、引き続き、市内の高校の魅力化に資する取組に支援を行うとともに、その取組を小中学生に発信することで、全ての子どもたちの卒業後の選択肢を増やし、益田の未来を担う子どもたちの育成を図る。

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

※別シートの令和4年度実績報告データを記載例として参照してください。

事業名	柿本人麿没後1300年事業補助金
取組内容	○事業の実施期間 令和5年5月9日 ～ 令和5年12月31日 ○取り組み内容の詳細 別紙のとおり
成果	イベント来場者数 目標値 6,570名／実績値 6,026名 (内訳) 万葉の里 ひとまるフェスタ ～万の言の葉を紡ぐ～ 来場目標：3,000名／実績5,000名 柿本人麿没後1300年祭記念式典 来場目標：3,500名／実績1,000名 ひとまるさん探訪～石見相聞歌の舞台を訪ね、未来への継承 参加目標：50名／実績26名
今後の事業展開	1300年事業がきっかけとなり、多様な人、団体が主体的に関わる場が創出された。これらの人、団体が事業終了後もそれぞれに活動を継続することで一過性のイベントではなく、事業終了後も継続した持続可能な取り組みへとつなげる。

①柿本人麿ゆかりの地 誘導看板整備事業

観光客の周遊促進を図るとともに、万葉・人麿のまち益田を視覚的に発信し、人麿を活かしたまちづくりの具現化を図ることを目的に、益田市内の2か所（国道191号線交差点、鴨島展望地入口前）に誘導標識を設置した。

【実績・効果】

ゆかりの地への誘導看板を設置することで、観光客が自ら周遊できる体制の整備につながった。

【今後の取組み・活用】

今後の設置計画

令和6年度 2基／令和7年度 3基／令和8年度 5基 完了

②柿本人麿PRツール制作

人麿ゆかりの地益田のプロモーション動画を作成し、SNS及びYouTubeで発信した。

作成した動画：2次元コード



また、人麿の足跡を時系列でたどりながら、ゆかりの地やサイクリング・ドライブコースを写真や地図で紹介する小冊子を作成し、益田市への誘客を図った。

作成部数：1,000部

配布箇所（代表的な個所を記載）：記念式典、益田市観光協会、萩・石見空港、島根県芸術文化センター「グラントワ」

【実績・効果】

広く「人麿の里 益田」の情報発信を行ったことで、新たな誘客につながった。

YouTube 視聴数：114／いいねの数：11

【今後の取組み・活用】

YouTube についてはさらなる拡散を目的に関係者間で共有するとともに、行政機関や学校機関などにも協力を依頼し、さらなる拡散に努める。

小冊子については作成した1,000部は全て配布済み。今後、予算が確保され次第、増刷を検討する。また、冊子データについて、観光協会のホームページに掲出、YouTubeで配信するなど、活用を図る。

③万葉の里 ひとまろフェスタ ～万の言の葉を紡ぐ～

日時：令和5年7月16日

会場：高津柿本神社、門前町、やぶさめ公園周辺

来場者数：約5,000人

地域への経済効果（出店売上）：約3,500千円

実施概要及びその実績：

ひとまろマルシェ

全国に多く存在する柿本神社の総本山である高津柿本神社の門前通りのかつての賑わいを住民中心に取り戻すことを目的に実施した。

ステージイベント

万葉をテーマとした各種ステージを展開し、地域住民・団体の活動発表の機会を創出するとともに、誘客につなげた。

- ・万葉ステージ（8団体）
- ・やぶさめ公園ステージ（6団体）
- ・高津公民館（2団体）
- ・和風野外音楽堂（2団体）
- ・高津柿本神社周辺（2団体）
- ・その他（2団体）



【和風野外音楽堂】

その他：国土交通省主催の水辺利活用を目的とした官民一体の共同プロジェクト「ミズベリング」を同時開催し、誘客面での相乗効果が図られた。



【左 ひとまろマルシェ】



【下 ミズベリング】

④柿本人麿没後1300年祭記念式典

日時：令和5年8月26日（土）、27日（日）

会場：島根県芸術文化センター「グラントワ」

来場者数（各日）：約450名、約550名

概要：

8月26日（土）

10：30～ オープニング～石見相聞歌演奏・合唱～

万葉集巻二131の長歌と短歌をベースに高橋久美子氏が作曲した楽曲をグラントワ弦楽合唱団、グラントワ合唱団、島根邦楽集団（3団体、90名）が演奏した。

結果、下記のとおり当初の目的を達成した。

目的）

- ・石見相聞歌に詠まれた島根県石見地方の全国発信
柿本人麿伝は全国所説あるが、石見相聞歌の演奏・合唱を通し、来場者に分かり易く伝えることができた。
- ・万葉の里益田市の定着（誘客のきっかけづくり）
ポスターチラシ、SNSを通じて発信し、全国各地より来場があった。
市内外、様々な地域の方へ人麿の里益田市を発信し、誘客へのきっかけづくりにも繋がった。
- ・人麿の代表的な歌である石見相聞歌を音楽として聴き、親しむことで郷土愛の醸成を図った

11：00～ 記念式典

開会宣言の後、島根県知事をはじめ来賓（25名）の紹介・あいさつ、委員長のあいさつを行った。

また、エバーグリーンミニコンサート（「人麻呂哀歌」「悠久の川」演奏）開催のほか、和歌披講を伝承する会により、古式に則った古代の装束で人麿さんゆかりの歌（5首）を情感豊かに披露した。



【オープニング】



【県知事あいさつ】

13：30～ 記念講演会

万葉の分野で全国でも著名な講師を招聘し、万葉集の中で最も多くの歌を残し、また、そ

の生涯に謎の多い人麿と石見・益田について講演していただくことで「人麿ゆかりの地益田」の価値付けを図った。

講師 高岡市万葉歴史館 名誉館長 坂本 信幸 氏

演題「万葉集と石見相聞歌」

講師 山陰万葉を歩く会 会長 川島芙美子 氏

演題「一千三百年続き人麿信仰と石見」



【坂本信幸氏】



【川島芙美子氏】

8月27日（日）

10：30～ 創作朗読劇

人麿歌集「愛しき妹と海のうた」に基づき、新たに創作。和太鼓、詩吟、演劇などの市内文化団体等のコラボレーションにより朗読・群読・歌・映像など多様な表現で人麿の歌と心の物語を紡いだ。

結果、下記のとおり当初の目的を達成した。

目的)

- ・石見相聞歌に詠まれた島根県石見地方の全国発信

柿本人麿伝は全国所説あるが、石見地方での人麿伝を朗読劇を通し、視覚的に伝えることにより、来場者に分かり易く伝えることができた。

- ・万葉の里益田市の定着（誘客のきっかけづくり）

ポスターチラシ、SNSを通じて発信し、全国各地より来場があった。

市内外、様々な地域の方へ人麿の里益田市を発信し、誘客へのきっかけづくりにも繋がった。

- ・演じながら人麿の生涯を学び郷土愛の醸成につなげる

柿本人麿の歴史をもとに台本を作成し、すべての演者に台本を通して人麿の生涯を学んで頂いた。関係者含め約 100 名の益田市民に人麿の生涯や歴史、益田市との関係性をより深く理解していただいたことで郷土愛の醸成につながったと考える。

今後、演者を含む関係者からひとりでも多くの益田市民へ人麿の歴史を拡げていくことで、人麿公に対する誇りを持った市民が増えていくものと期待する。



13：00～ 創作石見神楽

人麿没後 1300 年、文化協会創立 40 周年を記念し創作された石見神楽を上演した。

演目：人麿伝

社中：高津神楽社中

13：30～ 人麿の里全国万葉短歌大会

石西歌人クラブ、島根県立万葉公園との共催で実施。

概要：記念講演

講師：短歌誌「歩道」発行人、斎藤茂吉記念館館長

秋葉四郎氏

演題：館長 10 年 茂吉の人と歌

応募数：一般 300 首

ジュニア 432 首



ひとまろマルシェほか

万葉の里 ひとまろフェスタ出店者等により、グラントワ中庭を会場にマルシェ（飲食物の出店）を開催した。また、久々茂社中による石見神楽上演を行った。

その他、大ホールホワイエを会場に以下、開催した。

- ・展示「伝承が語る人麿の生涯とゆかりの地」
- ・書籍販売
- ・鴨嶋 3D 再現図展示（県立翔陽高校生制作）
- ・茶道裏千家石見淡交青年部による万葉茶会（26 日のみ）
- ・ひとまろ 845（はしご）

ひとにやろ先生が地域の子どもたちを集め、伝統文化に触れる活動を行った。伝統文化に触れる活動として、プロの狂言師との交流や、飛鳥時代の食べ物の研究を行った。

また、柿本人麿が活躍していた時代、索餅（さくべい）という食べ物が流行ったという記録から、材料を調査し、現代風にアレンジした商品を再現し、マルシェで販売を行った。



【ひとまろマルシェ】



【鴨嶋後模型】

【実績・効果】

③万葉の里 ひとまろフェスタ ～万の言の葉を紡ぐ～

来場目標：3,000名／実績5,000名

④柿本人麿没後1300年祭記念式典

来場目標：3,500名／実績1,000名

【今後の取組み・活用】

ひとまろフェスタは「益田市高津川かわまちづくり計画」と連携した取り組みへと展開。

具体的にはにぎわい創出拠点の一つとしてやぶさめ公園付近が位置付けられており、益田市の歴史や文化に触れることのできる、高津川の「玄関口」として周辺の観光施設と一体となった川の周遊やイベントなどの賑わい空間の創出へとつなげることで、益田を代表するイベントとして定着させ、地域内外の来場を促したい。

その他の取り組み

・石見万葉ツアー

1300年関連事業に併せ、奈良県より約40名が来石見。

日時：令和5年8月25日（金）～27日（日）

⑤ひとまろさん探訪～石見相聞歌の舞台を訪ね、未来への継承

石見相聞歌の舞台である江津市をはじめ、石見地方の万葉関係者とともにゆかりの地を訪ね、石見地方での人麿に関わる人・団体のネットワークを構築し、人麿の魅力とその伝承の再発見ならびに後世への継承を図った。

【実績・効果】

実施日：令和5年5月20日

参加者数：益田26名、江津4名

計30名



【今後の取組み・活用】

江津はもちろん、石見地方の他の人麿ゆかりの地との連携も模索し、石見の万葉の発信に努めたい。

⑥情報発信

下記のとおり、各種手法により 1300 年事業の広報に努めた。

【実績・効果】

- ・ひとまるフェスタチラシ

作成部数：8,000 部

- ・記念式典チラシ

作成部数：第 1 弾 3,000 部

第 2 弾 4,000 部

- ・市広報 8 月号表紙、特集記事

掲載原稿別紙のとおり

- ・告知放送の活用

- ・益田市柿本人麿公顕彰会開放「あしびき」の活用

10 号、11 号

作成配布数：各 300 部

- ・オリジナルキャラクターの募集、活用

応募者数：64 件

名称：ひとまるくん

活用：市内観光地各所巡回 PR を実施。市内観光地各所巡回 PR を継続するほか、人麿関連のイベント実施の際に展示する。



令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	益田市版「ツナガル」事業
取組内容	【事業概要】 県外の大学等に進学後、就職活動が始まるまでの間、地元とのつながりが希薄になり、Uターン就職への関心や情報量が低下していることから、訴求力のある情報の発信やプログラムなどの活動機会の提供等により、学生の市内就職を促進する取組を経年的（令和4年度～令和7年度）に実施する事業である。 令和5年度では、下記の①～③の事業を実施した。 ①オンラインでつながる事業 益田出身者との繋がりを作り、SNS（LINE公式アカウント「ますだより」）を活用したコミュニティづくりと、益田市を楽しむイベント・催し物等の情報発信、益田暮らしを楽しんでいる人のリアルな暮らしぶりの紹介、おたすけ情報（交通費補助等）の発信を行う事業 【公式LINE「ますだより」】  インターンシップ情報  ますだより登録  イベント情報  市内高校での登録周知の様子

取組内容

②ひとづくりでつながる（つながり続ける）事業

益田市出身者と繋がり続け、関係性を薄れさせないことを目的とし、帰省時等に参加及び参画できる、益田市の地域や企業を切り口とした多面的な現地情報を体感出来る益田版インターンシップ（就業体験・ライフキャリア体験）プログラムの作成支援、インターンシップの運営支援（集客・広報・運営・伴走サポート）を行う事業

【益田版インターンシップ制度の導入】

益田版インターンシップは、企業や団体での就業体験だけでなくライフキャリア体験（生活体験・先輩社員との交流等）も同時に体験できるプログラム

メルコパワーデバイスで学ぶ ～樹脂成型品開発業務の体験～

「材料力学」が活きる!!
樹脂成型品の開発を体験する5日間

■プログラムを通して学べること

- ✓ 実際の案件を元に開発・設計業務を学べます
- ✓ 技術職に必要な専門的な技術・技能を学べます
- ✓ 実践的な課題解決業務における視点や取組みに対するアドバイス、ヒントが得られます

■プログラム概要

当社の技術職と密着し、パワー半導体ケースのコア技術である樹脂成型品開発業務の経験・設計業務を体験することにより、過去学習を題材とした実践的な課題を用いて演習することが出来ます。

三波電機グループにおいて、三波電機の研究開発に連携し、開発業務を体験することができ、開発・設計業務を行う社員とのアイスカンや試験取組の機会やアドバイスを頂くことが出来ます。

■スケジュール（9:00～17:00）

- <1日目> 会社及び技術職の業務・樹脂成型、使用ソフト等の設備確認
- <2日目> パワー半導体基礎、樹脂成型プログラムの勉強
- <3日目～4日目> 開発・設計業務の経験、過去の事例を題材とした課題演習、技術職との交流（アイスカン）
- <5日目> 課題解決の経験、ミーティング

■受入期間（5日間）

- ① 2月26日(月)～3月1日(金)
- ② 3月11日(月)～3月15日(金)

※上記日程で応募が合わない場合でもご相談ください。

メルコパワーデバイス株式会社
最上工場（三波電機グループ）
（〒970-0077 福島県福島市平野町1071-3）
実習職歴/参加資格等（樹脂成型/金型/半導体製造/加工技術等）
事業所費/パワー半導体製品に使用する樹脂/ケースの開発・製造



③東京・大阪拠点でつながる事業

ライフキャリア教育により培った経験や県外で得た知識等を活かせる場、また故郷の様々な情報を得ることが出来る場として東京・大阪拠点を開設

【東京拠点】委託先：学校法人 大正大学

- ・拠点の運営（大学所有の4施設を調整して利用）
- ・市出身者を対象とした交流会の開催
- ・益田市内中高生との交流in益田の開催

【大阪拠点】委託先：特定非営利活動法人 志塾フリースクール

- ・拠点の運営（MASUDA BACKS）
- ・常設のコワーキングの利用
- ・定期的な交流の場の提供
- ・就労支援
- ・益田ツアー
- ・益田関西若者会の設立の検討・準備

【東京拠点】



大学生リアルトーク



MASUDA交流会in東京



益田東高校修学旅行

【大阪拠点】



MASUDA BACKS拠点



成果	上記①～③の事業における成果目標と実績値																								
	①LINE登録者数 目標値：63% 実績値：42.5%																								
	【参考】 ※R6.3.31現在																								
	<table><tr><td>区分</td><td>高校1年生</td><td>高校2年生</td><td>高校3年生</td><td>2023卒業生</td><td>学生・社会人等</td></tr><tr><td>生徒総数</td><td>495名</td><td>505名</td><td>459名</td><td>516名</td><td>－</td></tr><tr><td>登録者数</td><td>1名</td><td>55名</td><td>195名</td><td>141名</td><td>576名</td></tr><tr><td>登録者割合</td><td>0.2%</td><td>10.9%</td><td>42.5%</td><td>27.3%</td><td>－</td></tr></table>	区分	高校1年生	高校2年生	高校3年生	2023卒業生	学生・社会人等	生徒総数	495名	505名	459名	516名	－	登録者数	1名	55名	195名	141名	576名	登録者割合	0.2%	10.9%	42.5%	27.3%	－
	区分	高校1年生	高校2年生	高校3年生	2023卒業生	学生・社会人等																			
生徒総数	495名	505名	459名	516名	－																				
登録者数	1名	55名	195名	141名	576名																				
登録者割合	0.2%	10.9%	42.5%	27.3%	－																				
②イベント等に参加した人数（満足度（%））・・・大学生等 目標値：12名（80%） 実績値：9名（71.4%） 【参考】 ・夏のインターンシップ受入プログラム（市内3社参加、受入数6名） ・春のインターンシップ受入プログラム（市内1社参加、受入数1名）																									
今後の事業展開	③イベント等に参加した人数（満足度（%））・・・高校生、大学生等 目標値：68名（80%） 実績値：参加人数12名、満足度：関東85.7% 関西（意識変容）「益田市にいつかは帰りたい」 肯定群66.6%→73.8% 【参考】 〇2/9（金）関東拠点イベント「益田市内中高生との交流in益田」 参加者9名（市内高校生7名、市内中学生1名、大学生1名） 〇3/23（土）関東拠点イベント「MASUDA交流会in東京」 参加者9名（うち市出身大学生2名、市出身社会人1名、市内高校生3名） 〇8/5（土）大阪拠点（MASUDA BACKS）イベント「大学生の交流会」 参加者18名（市出身者8名）																								
	①オンラインでつながる事業について ・「ますだより」の登録について、各学校や各進路先等によって周知すべき時期が異なるため、実態に合わせて周知を行う。 ・周知について、3年生から始めるのではなく、高校1・2年生の早い段階から周知を実施する。 ・登録により有益な情報を発信できるように内容の充実化を図る。 ・事業対象者以外にも「ますだより」を周知することで、横のつながりからの登録を促進する。																								
	②ひとづくりでつながる（つながり続ける）事業について ・大学生等の採用に向けて積極的な企業を掘り起すことが出来たことから、継続して取組を進める。 ・サポート企業だけではなく、既にジョブカフェしまねでインターンシップや短期仕事体験を募集している企業に対しても働きかけを行い、紹介するインターンシップのメニューを増やす。 ・情報発信方法として、ジョブカフェの利用だけでなく、関西圏や関東圏にある関係機関への情報提供や「ますだより」等による情報発信を実施する。																								
	③東京・大阪拠点でつながる事業について ・大阪拠点（常設拠点） U・Iターン者相談支援、企業情報等の閲覧、交流イベントの開催、就労支援業務、不要になった家具や家電のマッチング、特産品の販売、市出身者によるサークル活動補助等を実施予定 ・東京拠点（スポット拠点） 交流イベント・マルシェを活用した地域フェアなどを実施予定。イベントは幅広い世代に周知し、より多くの益田ファンを獲得し、関係人口の拡大に繋げる取組を行う。																								

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	理数系人材育成協働事業費（松江高専）
取組内容	【松江高専による工作教室の開催】 市内小中学生を対象に、ものづくりの楽しさを通して理数系への関心を高める取組として開催した。 7月16日 4講座開催（連射ゴム鉄砲の作製等） 32名参加 12月 9日 4講座開催（プログラミング等） 26名参加 【松江高専祭見学会の開催】 10月7日 市内小中学生等13名参加（内保護者4名） 高専生による引率で、学科展示、施設見学をし、理数系の授業等へ興味関心を持つ機会として開催した。 【インターンシップの受入れ】 高専生5名が市内企業2社のインターンシップに参加した。 【企業との交流】 算数・数学パワーアップ教室参加の高専生と市内企業5社との交流。
成果	【工作教室】 一部講座では定員より多くの申し込みがあり、抽選となるなど、多くの小中学生の参加があった。高専生との交流も含め、工作教室を通して、理数系への興味関心を高める機会となった。 7月、12月 2回開催 参加者数のべ58人 （数値目標：工作教室等参加者数のべ60人） 【企業との交流】 ○インターンシップの受け入れを実施した。 インターンシップ申出企業数11社、受入企業数2社 （数値目標：申出企業数10社、受入企業数3社） ○算数・数学パワーアップ教室に参加した高専生と交流した。
今後の事業展開	引き続き工作教室の開催を中心に、市内小中学生の理数系への関心を高める取組を進めるとともに、学校教育課と連携し算数・数学パワーアップ教室にも参加する。 また、本市出身学生を含め、市内就職促進につながる、インターンシップの受入れについても市内企業と連携し取り組む。 高専生が継続的に益田市とつながりを深めることの出来る取組を行う。

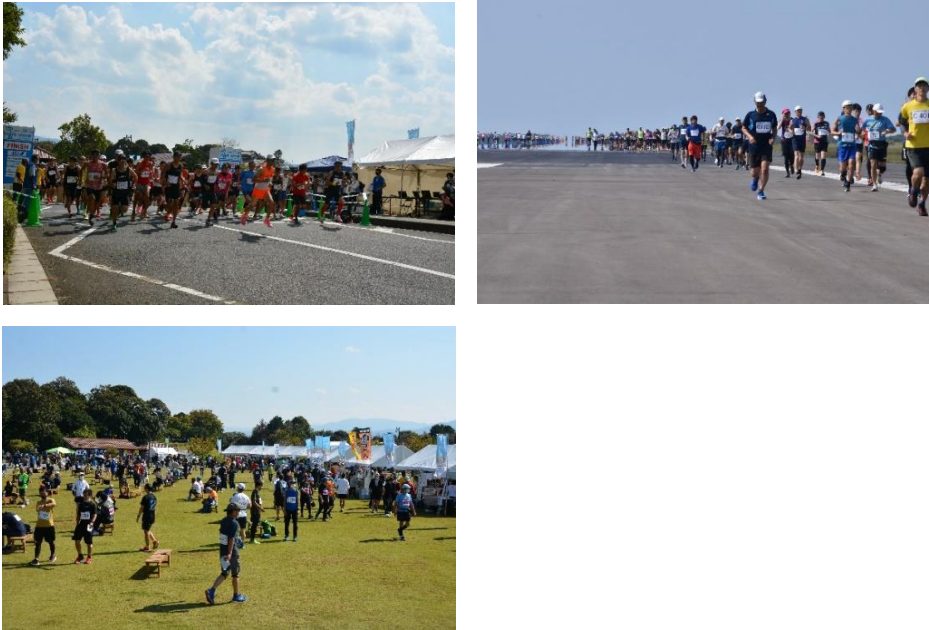
令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	歴史民俗資料企画展示事業
取組内容	益田市立歴史文化交流館開館記念特別展及び企画展の開催 特に令和5年度については、開館記念及び交流館の周知及び来館促進を図ることとして展示ルームの入場料は無料として以下の企画展を実施した。 ①益田市立歴史文化交流館開館記念特別展 春：魅せます！日本遺産中世益田の至宝展 ～中世の益田と益田氏～ 日本遺産の構成文化財群の中には通常は未公開のものもある。益田市歴史文化交流館開館記念として、これらの一部を特別に公開した。また、会期中、益田地区の寺院にご協力いただき、秘宝を公開するなど周遊促進に取り組んだ。 秋：中世武士団益田氏の本拠一益田一 国立歴史民俗博物館の協力を得て、「中世武士団」展のうち、特に益田市域に関する内容を展示。企画展の図録を作成し、日本遺産にも認定された中世の益田の魅力を広く発信した。   ②企画展 昭和ノスタルジック写真館 ～益田今昔物語～ 歴史民俗資料館が歴史文化交流館へと生まれ変わったのを記念し、資料館が開館以来収集してきた写真の中から、昭和時代の益田を写した写真を公開。また、昭和18年の豪雨災害を記録した貴重なガラス乾板を初公開した。 ③企画展 大正昭和レトロ展 特別企画 初公開！徳川夢声「直筆脚本」 昭和を知らない若者たちの間でも人気となっている昭和レトロの家具や雑貨。企画展では、幅広い年代をターゲットに益田市が所蔵している懐かしのアイドルや洋楽のレコード、ちゃぶ台やガラス食器、看板等の展示を実施。 また、同時開催として、益田出身の活動弁士「徳川夢声」の貴重な直筆脚本を、夢声ゆかりの品と合わせて公開した。   ④企画展 むかしの暮らし ミニ展示 復活！我が家の宝もの展 明治・大正・昭和時代を中心とした生活や娯楽など、人々の暮らしの様子を当時の民具や生活用具を用いて紹介。小学校3年生の学習単元として社会科見学にも対応し、昔の道具や暮らしの様子の見学、学芸員からの説明を実施した。また、市民の所有するお宝を募集展示した。
成果	益田市立歴史文化交流館の来館者数 目標/4,500人 実績/7,836人
今後の事業展開	企画展等を年間4回程度開催し、新たな来館や再来館を促進するための取り組みを行う。また、中世益田の構成文化財が多く存在する地区でもあることから、当施設を拠点とした周辺施設への周遊促進や、島根県芸術文化センター「グラントワ」などと連携し来館者数増を目指す。

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	雪舟の郷記念館管理運営事業
取組内容	益田市立雪舟の郷記念館に於いて以下の企画展の開催するとともに益田市立歴史文化交流館開館記念特別展を交流館と同時開催し、周遊促進を図った。 ①益田市立歴史文化交流館開館記念特別展 春：魅せます！日本遺産中世益田の至宝展～中世益田の文化～ 益田市歴史文化交流館開館記念として、通常は未公開の日本遺産構成文化財の公開や市所有の重要文化財 雪舟等楊筆「益田兼義像」の展示を実施。雪舟の郷記念館、歴史文化交流館で開催することにより周遊促進に取り組んだ。 秋：中世益田の文化力 ～神仏を守護し、美を愛す～ 国立歴史民俗博物館で開催された「中世武士団」展にちなみ、特に益田市域の仏像内容を展示。ノベルティ作成や体験型コンテンツを企画実施した。 ②企画展 斎川芳畹 ～下種村が生んだ絵師～ 島根県立石見美術館にて津和野藩の絵師をテーマとした企画展「山本栞谷と津和野藩の画人たち―栞谷没後150年記念―」の開催にちなみとして益田市下種村出身の絵師斎川芳畹にスポットをあてた企画展を実施。会期中には津和野藩絵師の作品が残る市内の天井絵バスツアーを開催し、多くの参加があった。  ③柿本人麿没後1300年記念企画展 益田の人麿さん 柿本人麿没後1300年記念企画展として、戸田柿本神社と高津柿本神社を中心に、人麿伝承・和歌に関連する資料の展示し、ふるさとの歴史と文化に誇りを持つ機会として企画展を実施した。  ④企画展 新田芳道と水墨画 ～濃淡・にじみ・かすれを極める～ 雪舟の代表作ともいわれる水墨画に着想し、水墨画の世界観を追求する浜田市在住の新田芳道氏が描いた、雪舟筆「四季山水図巻」の模写作品や、文部科学大臣賞受賞作品「梅香る」をはじめとする水墨画約60点の大作を展示。また、企画展の図録を作成し、水墨画の特徴ともいえる「濃淡」「にじみ」「かすれ」を極めた作品群を解説とともに紹介した。
成果	益田市立雪舟の郷記念館の来館者数 実績/5,357人 バスツアー参加者 6回開催 112人
今後の事業展開	令和6年度から2年間休館し、企画・展示機能だけではなく、歴史文化研究センター機能も持たせ、中世を中心とする益田市の豊かな歴史・文化の「調査・研究拠点」並びに研究成果の展示・公開等を行う施設として改修整備に取り組む。

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	萩・石見空港マラソン全国大会開催経費
取組内容	○大会開催概要 名称：第16回萩・石見空港マラソン全国大会 日時：令和5年10月15日（日） 参加実績： ・エントリー人数 2,268名 ・当日参加数 1,977名（うち、完走者数1,965名） 
成果	○目標値（募集定員） 2,250名 ハーフ 1,500名／10Km 500名／ファミリー 250名 ○実績値（エントリー数） 2,268名 ハーフ 1,381名／10Km 610名／ファミリー 249名 【参考】 15回 2,240名 ハーフ1,219名／10Km694名／ファミリー355名 14回 2,268名 ハーフ1,408名／10Km658名／ファミリー158名 13回 中止
今後の事業展開	全国でも珍しい、現役空港の滑走路を走ることができるマラソン大会を通じ、益田市の情報発信を行い、空港利用促進と圏域市町の活性化及び交流人口拡大を目的に引き続き、実施する。 日時：令和6年10月20日（日） 募集定員：2,450名（ファミリーの部を200名増）

令和5年度企業版ふるさと納税活用事業実績

事業名	学校教具・遊具更新事業
取組内容	学校に設置していた鉄棒などの教具の老朽化を踏まえ、児童の教育環境の充実を図るべく児童数等を考慮して、必要に応じた教具等の更新を図る。 【令和5年度設置状況】 ①設置校数・・・>9校 ②設置教具・・・鉄棒、一輪車補助具、ジャングルジム ※材料等の納入に時間を有したため、令和6年度に事業を繰越したが6月末で完了し、授業や放課後などで多くの児童などが活用している。  
成果	本市においては、地域全体で子どもたちの育ちを支えていく「学校を核とした地域づくり」を進めており、学校の授業だけではなく、放課後などにおいても地域の方々とのふれあいの場を創出できるように鉄棒などの教具や遊具を設置することで、児童の運動機能の向上と心身の健やかな成長を期待する。
今後の事業展開	令和6年度においては、市内6カ所に滑り台やジャングルジムを設置する予定としており、設置後は今後の体育等の授業や休み時間などでの活用が見込める。